

「医療人行動学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を展開して —一人間性豊かな歯科医師育成に向けての取り組み—

金銅 英二, 音琴 淳一, 瀬村 江里子

1. はじめに

本学は、建学の理念に立脚した人間性豊かな歯科医師を育成するため、2008年度に「医療人行動学」をスタートさせた。特に人間力、コミュニケーション能力の向上などを目的とし、1年生「自己の確立」、2年生「自己表現」、3年生「リーダーシップや医療面接」、4年生「医療面接実践」、5年生「医療コミュニケーション実践」、6年生「社会と医療人」と、各学年に即した内容の講義やグループワーク、実習を展開している。

本稿では、2008年度における「医療人行動学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業内容を簡単に紹介する。そして、その中の第一学年学生を対象とした「医療人行動学Ⅰ」について、教員および学生を対象に行ったアンケート調査の結果を基に、その内容等について考察を行いたい。

2. 「医療人行動学Ⅰ」実施概要

本科目は、第一学年学生を対象に、大学生・歯科学生としての自覚、適切な自己学習方法・規則正しい生活習慣の確立などを目標

し、通年（前期・後期）全30回の授業を行った。以下に主な内容を記す。

2.1 生活目標振り返りシート

学生に一週間に一度、自らの生活における目標を設定し、次の週にその達成度について自己評価を行うことを求めた。それらを記入したシートは教員が毎週確認し、コーチングの手法^①を意識したコメントを記入し、返却した。毎日の生活を検証することを習慣化させるとともに、教員との距離を縮め信頼関係の確立を図ることを意図した。さらに前期終了時および後期終了時には、本シートに対する学生自身の取り組みについて振り返る機会を設け、「まとめ」にコメントを記入させた。

2.2 全体講義

前期第2～4回の授業においては、以下の3つのテーマについて教員が一斉講義を行った。

- ①医療の現状について
- ②医療人に対する価値観について
- ③健康管理・自己管理について

2.3 小グループ討論

前期第5～13回の授業においては、学生たちは5～6人のグループに分かれ「良い歯科

(2010年3月10日受理.)

医師となるために」というテーマで意見交換を行った。各グループは、自分たちが議論した内容を1枚の紙にまとめて記載し提出した。

2.4 ライフプランを考える

後期第2～5回の授業においては、4名の卒業生にそれぞれの成功体験について講演してもらった。学生は講演を聴きその内容を400字程度の文章にまとめた。人の話を聴く、話の内容を整理する、整理した内容を文章で表現するという作業を繰り返し行うことで、コミュニケーション能力や聴き取り能力、ノートテイキング・文章表現能力の向上も図った。

2.5 医療倫理を考える

後期第6～13回の授業においては、医療に関する倫理的な問題を取り上げた。5～6人のグループを編成し、グループごとに選んだテーマについて発表を行った。まず各問題の背景や現状について調べ問題点を明らかにした上で、グループ内で話し合い、集約した意見を付け加えるよう指示した(表1)。グループに1人ずつ教員がつき、見守る形でサポートを行った。

表1 学生に示した発表例

発表例：「遺伝子診断」
1) 背景, 歴史, 現状 遺伝子診断とは？(定義・分類) 医療の進歩により、遺伝による疾患が発症前に診断できるようになった。
2) 倫理的論点・問題点 ・診断をするべきだ。なぜなら、・・・ ・診断すべきでない。なぜなら、・・・
3) (自分たちの) 主張・意見とその根拠 診断をすべきだと思う。なぜなら、・・・
4) 結論 医学の発展によりさらに複雑な倫理上の問題が生じた。

2.6 医療人行動学Ⅰ演習

金銅らによる目的達成の実習や障害突破の実習、自己表現の実習に加え接遇研修(ANAラーニング講師)などを行った。

3. 「医療人行動学Ⅱ」実施概要

本科目は、第二学年学生を対象に、大学や社会での自己表現について学ぶ、適切な自己学習方法と規則正しい生活習慣の確立(自己による)などを目指し、前期全15回の授業を行った。以下に主な内容を記す。

3.1 ライフプランを考える

学内の4名の先生方(伊藤充雄先生、井上勝博先生、宇田川信之先生、浅沼直和先生)に学生時代のことや現在の研究内容などについて、それぞれお話しいただいた。学生たちはメモを取りながら聴き、聞き取った内容と自分の感想を短い文章にまとめた。

3.2 医療倫理を考える

ディベート形式で、医療倫理に関する問題の討論を行った。医療倫理に関するケースをこちらから14題、提示し、28グループ(1グループ4～5人)を作り、グループ単位で、相反する二つの立場からディベートを行った。フロア(聴衆)はディベートの様子を用紙に記録し提出した。ディベート担当者は、「レポート例」を参考にレポートを作成し2週間以内に提出した。

3.3 医療人行動学Ⅱ演習

金銅らによる目的達成の実習や障害突破の実習、自己表現の実習、多様な価値観の存在を知る実習に加え、接遇研修(ANAラーニング講師)などを行なった。

4. 「医療人行動学Ⅲ」実施概要

本科目は、第三学年学生を対象に、医療倫理や医療面接について学ぶ、医療人としての自覚を育むことを目指し、後期全15回の授業

を行った。講義形態で医療倫理や医療面接技法について学習した後、学生間でのロールプレーを実施し、医療面接に必要な技術・態度を体得する。

4.1 全体講義

医療面接やインフォームドコンセント、医療倫理、合意と信頼、チーム医療などについて講義した。講義内容についてはノートを取らせ、教員側でノートチェックも行なった。

4.2 医療面接技法

基本的な医療面接技法をロールプレー方式で体得する。同時に評価者も体験することでOSCEでの評価方法なども学んだ。

4.3 医療人行動学Ⅲ演習

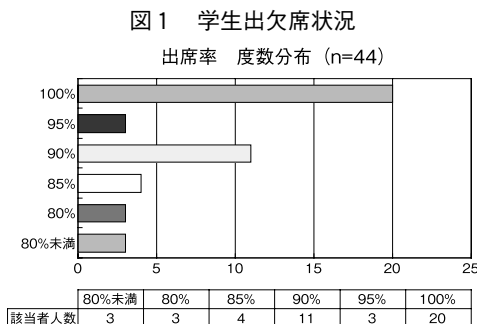
リーダーシップトレーニングやチームビルディングなどの実習、接遇研修（ANA ラーニング講師）、岡山 SP（模擬患者）研究会・代表の前田純子先生の講演と実習などを小グループに分けて実施した。

5. 「医療人行動学Ⅰ」の実施結果

本科目について特に「医療人行動学Ⅰ」における学生出欠席状況について示す。

5.1 学生出欠席状況

出席率が100%の学生が約半数を占めた。次に多いのは2～3回欠席をした学生であった。したがって、出席に関して言えば概ね良好であったと言える（図1）。



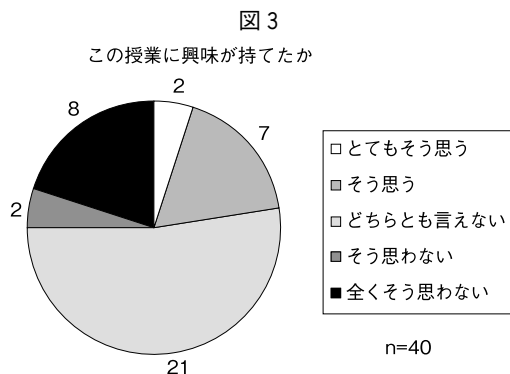
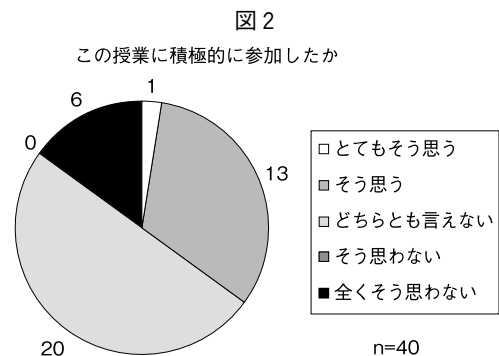
5.2 学生参加状況

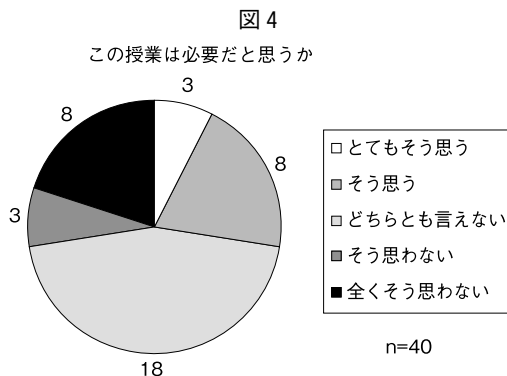
学生たちが本科目にどのような姿勢で取り組んでいたか、「授業アンケート」の中で、次の3つの項目について聞き、その結果を以下に図示した。

- 1) この授業に積極的に参加したか（図2）
- 2) この授業に興味を持てたか（図3）
- 3) この授業は必要だと思うか（図4）

積極的に「参加した」と答えた学生は14名、「参加しなかった」という学生は6名であった。また、「興味を持てた」という学生は9名、この授業が「必要だ」と答えた学生は11名であった。

この結果を見ると、学生たちは本科目に対して比較的積極的に参加したといえる。しかし、この授業の必要性は一部の学生には伝わっておらず、また、興味を持ってもらうと





ということについても十分とはいえない。これらの点について次年度は改善が必要である。

6. 「医療人行動学Ⅰ」考察

授業終了後に行ったアンケートについて、学生による回答と担当教員による回答を比較し考察を試みたい。(表2)

6.1 「生活目標振り返りシート」について

シートの作成が有益であったかどうか、この項目において、学生と教員の意識に最も大きなずれが見られた。学生の60%がシートの作成を「有益でなかった」と回答したのに対して、同じく60%の教員が「有益であったと思う」と回答した。この意識のずれをどう解釈しどう是正すべきか非常に難しい問題であるが、まずはこの結果から、教員がこの意識のずれを認識できたことを肯定的に解釈すべきであろう。また、学生と教員では「有益」と思うレベルに差があることも考えられる。学生たちは「労多くして得られる実が少ない」と考えている可能性が大きい。このことは、本アンケートの他の「有益だった」という質問項目においても、同じことが言えるかもしれない。

シートに記された教員のコメントについて、教員が期待していたほどは、参考にされていないことがわかった。それでも、30%の

学生が「コメントは参考になった」と答えていることに注目したい。シートを返却する際、コメントを記して返却することは教員から学生への働きかけの一つの手段となり得ると考えてよいのではないだろうか。

6.2 「小グループ討論」について

小グループ討論については、教員が思ったほど、学生は「有益」と思わなかったようである。しかし、自分の考えをメンバーに伝えたり、各自の意見を一つにまとめたりすることに関しては、教員が学生たちの様子を観察して思っていたより、学生たち自身は「できた」と感じていたようである。

6.3 「ライフプランを考える」について

これらの回答を見ると、「ライフプランを考える」の中で行った講演に関しては、概ね学生たちに良い影響を与えることができたと言ってよいだろう。モチベーションを高める効果が期待できる。一方、聴いた内容をレポートにまとめるタスクについては、うまくまとめることができたと感じた学生は、まだ多くないようである。

6.4 「医療倫理を考える」について

「医療倫理を考える」で行った活動については、教員は全体的に「有益であった」と考えているが、学生たちはさほどこの活動に意義を見出していないことがうかがえる。今後の課題としたい。

6.5 全体を通して

全体を通しての項目で、学生たちに悩みや心配事を相談できる「友だち」や「先生」の存在を尋ねてみた。「友だち」については、半数の学生が「できた」と回答。「先生」については、約30%が「できた」と回答したのに対し、40%が「どちらとも言えない」と回答した。悩みや心配事を相談できるかどうかはその時になってみないとわからないのか、あるいは現在本当のところを見極めていると

表2 授業アンケートにおける学生による回答と担当教員による回答の比較

		全くそう 思わない	そう 思わない	言えない	どちらとも 思わない	そう 思う	思っ てる	とても 思う	全くそう 思う	そう 思わない	言えない	どちらとも 思わない	そう 思う	思っ てる	とても 思う
I. 「生活目標振り返りシート」について (学生 n=40, 教員 n=10)															
1 シートの作成は、自分にとって有益だった。	学生	11	13	10	5	1	27.5%	32.5%	25%	12.5%	2.5%				
	教員	0	0	3	6	1	0%	0%	30%	60%	10%				
2 自分が立てた目標を達成しようと努力した。	学生	8	5	15	11	1	20%	12.5%	37.5%	27.5%	2.5%				
	教員	0	2	7	1	0	0%	20%	70%	10%	0%				
3 シートの作成により、生活習慣に変化が生じた。	学生	9	8	17	5	1	22.5%	20%	42.5%	12.5%	2.5%				
	教員	0	1	4	5	0	0%	10%	40%	50%	0%				
4 シートの作成により、学習習慣に変化が生じた。	学生	9	7	17	4	3	22.5%	17.5%	42.5%	10%	7.5%				
	教員	0	2	5	3	0	0%	20%	50%	30%	0%				
5 シートに記された先生のコメントは参考になった。	学生	8	5	13	11	3	20%	12.5%	32.5%	27.5%	7.5%				
	教員	0	0	4	5	1	0%	0%	40%	50%	10%				
6 シートの返却のタイミングは適切だった。	学生	6	0	22	8	4	15%	0%	55%	20%	10%				
	教員	0	1	2	6	1	0%	10%	20%	60%	10%				

II. 「小グループ討論」について															
1 小グループ討論は自分にとって有益だった。	学生	8	1	19	10	2	20%	2.5%	47.5%	25%	5%				
	教員	0	1	3	4	2	0%	10%	30%	40%	20%				
2 自分の考えを口頭でグループのメンバーに伝えることができた。	学生	5	3	18	13	1	12.5%	7.5%	45%	32.5%	2.5%				
	教員	0	2	4	2	2	0%	20%	40%	20%	20%				
3 一人ひとりの意見をグループで一つにまとめることができた。	学生	4	3	17	13	3	10%	7.5%	42.5%	32.5%	7.5%				
	教員	0	0	6	3	1	0%	0%	60%	30%	10%				
4 全員が、一つのテーマについて話し合うことができた。	学生	4	2	15	12	7	10%	5%	37.5%	30%	17.5%				
	教員	1	0	2	5	2	10%	0%	20%	50%	20%				

III. 「ライフプランを考える」について															
1 講演は、自分のライフプラン(将来計画)を考える上で、参考になった。	学生	6	3	12	14	5	15%	7.5%	30%	35%	12.5%				
	教員	0	0	1	5	4	0%	0%	10%	50%	40%				
2 聴いた内容をうまく文章にまとめることができた。	学生	8	2	21	8	1	20%	5%	52.5%	20%	2.5%				
	教員	0	2	3	5	0	0%	20%	30%	50%	0%				
3 講演内容に対する自分の考えをレポートに書くことができた。	学生	7	4	22	6	1	17.5%	10%	55%	15%	2.5%				
	教員	0	0	4	5	1	0%	0%	40%	50%	10%				
4 将来自分はこういう歯科医師になりたいというイメージができた。	学生	5	1	12	16	5	12.8%	2.6%	30.8%	41%	12.8%				
	教員	0	0	2	6	2	0%	0%	20%	60%	20%				

IV. 「医療倫理を考える」について															
1 グループ活動は自分にとって有益だった。	学生	5	1	18	11	5	12.5%	2.5%	45%	27.5%	12.5%				
	教員	0	1	0	7	2	0%	10%	0%	70%	20%				
2 医療倫理の諸問題について、何が問題かを理解することができた。	学生	4	2	17	14	3	10%	5%	42.5%	35%	7.5%				
	教員	0	1	3	5	1	0%	10%	30%	50%	10%				
3 考えるために必要な材料(参考資料等)をうまく集めることができた。	学生	4	2	19	11	4	10%	5%	47.5%	27.5%	10%				
	教員	0	1	1	6	2	0%	10%	10%	60%	20%				
4 グループの中で、自分の役割を果たすことができた。	学生	4	3	18	9	6	10%	7.5%	45%	22.5%	15%				
	教員	0	2	0	8	0	0%	20%	0%	80%	0%				
5 目標達成のためにグループのメンバーと協力することができた。	学生	4	4	17	9	6	10%	10%	42.5%	22.5%	15%				
	教員	0	0	1	6	3	0%	0%	10%	60%	30%				

V. 全体を通して															
1 大学の中で、悩みや心配事を相談できる友だちができた。	学生	4	4	12	12	8	10%	10%	30%	30%	20%				
	教員	0	0	4	5	1	0%	0%	40%	50%	10%				
2 大学の中で、悩みや心配事を相談できる先生ができた。	学生	8	3	16	9	4	20%	7.5%	40%	22.5%	10%				
	教員	0	0	6	3	1	0%	0%	60%	30%	10%				
3 この授業に積極的に参加した。	学生	6	0	20	3	11	15%	0%	50%	32.5%	2.5%				
	教員	0	0	6	3	1	0%	0%	60%	30%	10%				
4 この授業に興味が持てた。	学生	8	2	21	7	2	20%	5.0%	52.5%	17.5%	5%				
	教員	0	1	6	3	0	0%	10%	60%	30%	0%				
5 この授業は必要だと思う。	学生	8	3	18	8	3	20%	7.5%	45%	20%	7.5%				
	教員	0	0	6	4	0	0%	0%	60%	40%	0%				

ころなのかもしれない。

6.6 目標の達成度

次に、本科目が目指した3つの一般目標の達成度について検討を行いたい。

- (1) 大学生・歯科医学生としての自覚
- (2) 適切な自己学習方法の習得
- (3) 規則正しい生活習慣の確立

表3 教員アンケート結果(目標達成)

次の目標はどの程度達成されたと思いますか。	
(n=10) 平均	
(1) 大学生・歯科医学生としての自覚	64.5%
(2) 適切な自己学習方法	61.0%
(3) 規則正しい生活習慣の確立	61.5%

表3は、担当教員10名が3つの目標の達成度についてパーセンテージで回答したものの平均である。担当教員が最も達成度が高いと考えたのは「大学生・歯科医学生としての自覚」であった。また「適切な自己学習方法」と「規則正しい生活習慣の確立」については、ほぼ同じくらいの達成度と考えていることがわかった。

では学生はどのように感じているだろうか。面接調査の結果によると、「医療人行動学の講義を受けて自身の変化した点」として、15名(39.5%)が「歯科医師になるという自覚の出現」を挙げた。また8名(21.1%)が「コミュニケーションスキルの向上」を挙げ、「生活習慣の改善」については3名(7.9%)にとどまった。

以上の結果から、本科目が目指した一般目標(1)の「大学生・歯科医学生としての自覚」については、ほぼ目標を達成することができたと言ってよいのではないだろうか。一方(2)の「適切な自己学習方法」や(3)の「規則正しい生活習慣」については、教員側が意図したようには学生たちに伝わらなかったようである。今後の課題としたい。

7. おわりに

本稿では、2008年度より新しく導入された「医療人行動学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の2008年度の取り組みについて紹介し、「医療人行動学Ⅰ」を中心に教員および学生アンケートの回答によりその内容について考察を行った。

第一学年、第二学年学生を対象に行った「ライフプランを考える」は非常に好評で、モチベーションアップにつながっているのが今後も継続して展開したい。但し展開は今年度のように集中して実施するのではなく、14コマに散在させてモチベーションのアップの維持を図りたい。

また、第三学年の「医療人行動学Ⅲ」については、次年度に受験する共用試験(CBT・OSCE)などを意識させ、歯科医学生としての存在位置を知ると共に医療面接技法などではロールプレーを導入して学生相互間の態度教育や医療人としての自覚を育むことをより強化したい。また全体講義では、要点を強調・繰り返すことをし、知識の整理につながるよう配慮したい。さらに、学内教員だけでなく学外講師からの指導を受けることで「歯科医学と社会との関連」についても意識するような関わりを図りたい。外部講師ANAラーニングが実施した医療人行動学演習の内容については表4に示す。

最後に、今回「医療人行動学Ⅰ」に関するアンケート結果を基に考察を行ったが、今後このような分析を「医療人行動学Ⅱ」や「医療人行動学Ⅲ」においても行っていきたいと考えている。

謝辞

2008年度の医療人行動学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを展開するにあたり、多くの教職員(表5)の多大なる理解とご協力を頂いた。この方々に心か

表4 医療人行動学演習実施内容（1－5年）：ANA ラーニングプログラム概要（シラバス）

学年	時期	実施内容
第一学年	前期	<p>人間形成、学習態度の育成、社会性への適合</p> <p>目標：マナーの基本を知り、歯科医学生・大学組織の一員としての自覚を促す</p> <ol style="list-style-type: none"> マナーの基本精神 挨拶の重要性、立ち居振舞い、身だしなみ、自己管理の重要性（時間を守る、心身の健康管理、報連相） 大学組織の一員として 公私の区別、コンプライアンス、席次
第一学年	後期	<p>目的意識の明確化</p> <p>目標：8ヶ月の行動の点検・振りかえりを行い、学習意欲を促進させるとともに、将来を考え目的を明確にする</p> <ol style="list-style-type: none"> 前期の振り返り 将来を考える「目標管理」 目標設定：10年後にどうなっていたいかを具体的に考える「あなたのビジョンは？」 2年生に向けて「私の夢・目標・ビジョンシートの達成のための計画書」を立てる 自分を知る EQ「Emotional Quotient」（感情指数・心の知能指数）検査 「プラスマインド」でないと行動が取れない、変わるためにはプラス思考になることが必要であることに気づかせる
第二学年	前期	<p>人間力向上、コミュニケーション能力の向上</p> <p>目標：自分と周囲との関わりについて考える。他人の話を良く聴く、自分の考えをまとめ周囲へ伝える等、自己表現と円滑なコミュニケーションの重要性を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 「マナー」の振り返り コミュニケーションの重要性Ⅰ 勇気と自信の養成：即席スピーチ、自意識の克服：演習「洗剤販売」 相手の心理に影響を与えるコミュニケーション：演習「ストローク」
第二学年	後期	<p>人間力向上、コミュニケーション能力の向上</p> <p>目標：自分と周囲との関わりについて考える。他人の話を良く聴く、自分の考えをまとめ周囲へ伝える等、自己表現と円滑なコミュニケーションの重要性を知る自分の意思や意見を的確に相手に伝えられる“表現力・説得力”を身につける</p> <ol style="list-style-type: none"> 「マナー」の振り返り コミュニケーションスキルの重要性Ⅱ 人の話を良く聴く：演習「緊急事態発生 歯医者情報を集める」 コミュニケーションスキルの重要性Ⅲ 説得力と表現力を増す話し方：教訓（90秒スピーチ）
第三学年	前期	キャンセル
第三学年	後期	<p>チーム医療の理解、リーダーシップの発揮</p> <p>目標：自分と周囲との関わりについて考える。他人の話を良く聴く、自分の考えをまとめ周囲へ伝える等、自己表現と円滑なコミュニケーションの重要性を知るチームビルディングの演習を通じ、チーム力には何か必要かを理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 「接遇（心構え）&マナー」の振り返り チームビルディング ・傾聴について考える 「聞く」「聴く」「訊く」「効く」「利く」の違い ・チーム力＝リレーションシップ（人間関係・接遇）⇔コミュニケーション（意思伝達） ⇔ リーダーシップ（影響力）
第四学年	前期	<p>未来像の明確化、コミュニケーションの実践</p> <p>目標：歯科医療面接を視野に入れたうえで接遇の基本を習得する 他人の話を良く聴く、自分の考えをまとめ周囲へ伝える等、話す・聴くの実践を積み“心”を伝える力をつける</p> <ol style="list-style-type: none"> 「接遇の基本」の振り返り コミュニケーションの重要性 勇気と自信の養成：即席スピーチ、感じの良い話し方と聴き方 相手の心理に影響を与えるコミュニケーション：演習「ストローク」
第四学年	後期	<p>医療面接実習</p> <p>目標：歯科医療面接を視野に入れたうえで、身だしなみ、立ち居振舞い、言葉遣い等を修正、習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 身だしなみ、立ち居振舞い、敬語の確認 ロールプレイの実践 シナリオをもとに、歯科医師役、患者役となりロールプレイを繰り返す チェックシートに従い評価し、客観的な視点で点検・振り返りを行う
第五学年	前期	<p>実習生としての心構え、コミュニケーション能力の向上</p> <p>目標：自分と周囲との関わりについて考える。他人の話を良く聴く、自分の考えをまとめ周囲へ伝える等、自己表現と円滑なコミュニケーションの重要性を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 歯科医師として求められる態度の確認（社会人として、医療人として、医学を学び医療に従事するものとして） 実習生としての心構え（身だしなみ、立ち居振舞い） コミュニケーションの重要性 勇気と自信の養成：即席スピーチ 自意識の克服：演習「洗剤販売」 相手の心理に影響を与えるコミュニケーション：演習「ストローク」
第五学年	後期	<p>実習生としての心構え、コミュニケーション能力の向上</p> <p>目標：自分と周囲との関わりについて考える。他人の話を良く聴く、自分の考えをまとめ周囲へ伝える等、自己表現と円滑なコミュニケーションの重要性を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 「接遇の基本」の振り返りと徹底 身だしなみ、立ち居振舞い、言葉遣い 等 傾聴について考える 「聞く」「聴く」「訊く」「効く」「利く」の違い ロールプレイの実践 ※ 場面設定につきましては、要相談

ら感謝申し上げる。

参考文献

- (1) Laura Whitworth, Phil Sandahl, Henry Kimsey-House (2002), 「コーチング・バイブル—人がよりよく生きるための新しいコミュニケーション手法」, 東洋経済新報

表5 2008年度医療人行動学担当者一覧

<p>医療人行動学Ⅰ担当者・講師</p> <p>岡藤範正, 倉澤郁文, 鷹股哲也, 増田裕次, 矢ヶ崎 雅, 山下利昭, 富田美穂子, 平賀 徹, 今村泰弘, 田中忠芳, 姫野勝仁, 中村典正, 金銅英二, 瀬村江里子</p> <p><u>外部講師</u></p> <p>吉川仁育 (開業医), 柳澤宣勝 (開業医) 坂部千恵子, 永吉初美, 岩田真理子 (ANAラーニング)</p>
<p>医療人行動学Ⅱ担当者・講師</p> <p>伊藤充雄, 浅沼直和, 王 宝禮, 増田裕次, 平井 要, 井上勝博, 宇田川信之 金銅英二, 瀬村江里子</p> <p><u>外部講師</u></p> <p>坂部千恵子, 永吉初美, 岩田真理子 (ANAラーニング)</p>
<p>医療人行動学Ⅲ担当者・講師</p> <p>岡藤範正, 倉澤郁文, 内田啓一, 谷山貴一, 織田秀樹, 音琴淳一, 金銅英二</p> <p><u>外部講師</u></p> <p>前田純子 (岡山 SP 研究会代表) 坂部千恵子, 永吉初美, 岩田真理子 (ANAラーニング)</p>